心理・福祉分野の資質能力一覧
養成大学向け養成プログラム

はじめに

1. 策定の趣旨と位置付け

近年の社会環境の変化に伴い、児童生徒等が抱える健康課題は複雑化・多様化しており、養護教諭には、心身の不調の背景にある精神医学的・福祉的課題を早期に発見し、適切な支援につなぐ役割が求められている。中央教育審議会答申（令和 6 年 8 月 27 日）においても、教師や専門家等と連携し、きめ細かく支援する養護教諭の重要性が指摘されているところである。こうした背景を踏まえ、文部科学省委託事業「心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭の養成・育成プログラム開発事業」では、養護教諭養成・臨床心理学・社会福祉学の専門家等による検討を経て、現代の養護教諭に不可欠な専門性を養護教諭が修得すべき「心理・福祉分野の資質能力一覧」（以下「資質能力一覧」という。）として体系化した。本一覧は、養成段階にある学生のみならず、現職を含めた養護教諭を対象として、現代的な健康課題への対応をより充実させる観点から、心理・福祉分野に関して身に付けることが望ましいと考えられる資質能力を、本事業の実施しうる範囲で整理したものである。

また、養成大学において、資質能力一覧を基にして、科目の新設や授業への組み入れを検討する際に参考となるよう、「養成大学向け養成プログラム」も策定した。

2. 心理・福祉分野の資質能力一覧の策定方針

資質能力一覧の策定にあたっては、心理職や福祉職の高度な専門性をそのまま養護教諭に求めるのではなく、学校現場の実態に即した職務遂行可能性を重視した。具体的には、スクールカウンセラー等の専門家が常駐していない状況においても、養護教諭が「第一発見者」及び「連絡調整役（コーディネーター）」として機能するために必要な能力に焦点を当てた。その際、養護教諭本来の業務を基盤としつつ、遂行可能な「気付き」「見立て」「関わり」「つなぎ」のスキルを中心に、心理・福祉分野に関して身に付けることが望ましい要素を整理している。これらは、現代の児童生徒等が抱える健康課題に向き合うすべての養護教諭にとって普遍的に必要な資質である。あくまで、養護教諭独自の理論・実践を尊重しつつ、他職種と共通言語を持って連携の質を高めることを目指し整理したものである。

3. 心理・福祉分野の資質能力一覧の構成と特徴

資質能力一覧は、養護教諭の職務特性を踏まえ、以下の 3 分野で構成されている。

① 心理福祉共通分野
児童生徒等の精神保健に関する理解と支援、健康相談及び心理社会的アセスメントと連携に関する資質能力

② 心理分野
心理社会的・認知的発達及び心身相関に基づく見立てと配慮、健康相談及び保健指導における心理的支援の基礎と関係調整に関する資質能力

③ 福祉分野

権利擁護及び福祉的視点に基づくアセスメントと支援、福祉制度や社会資源の活用及び多職種連携のための設計に関する資質能力

４．養成大学向け養成プログラムの策定方針

本プログラムは、前掲の「資質能力一覧」で定義された資質能力を基盤としつつ、以下の 3 種類の養成課程において、心理・福祉分野の資質能力を身に付けるための科目案（3 種）を検討したものである。

- （心理福祉共通分野）心理系学部・福祉系学部を有していない養護教諭養成課程を有する大学において、心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭を養成するための科目
- （心理分野）養護教諭養成課程を有する福祉系学部の大学において、心理分野に強みを持つ養護教諭を養成するための科目
- （福祉分野）養護教諭養成課程を有する心理系学部の大学において、福祉分野に強みを持つ養護教諭を養成するための科目

５．資質能力の養成大学における活用方法

各大学のカリキュラム編成やリソースの状況に応じ、例として、以下のような形態での活用を想定している。

- **科目の新設・再編**：本プログラム全体又は一部（心理編・福祉編）を用いて、新たな科目を設置、あるいは既存科目の内容を刷新する際のシラバス案として活用する。
- **既存科目への組み入れ**：「健康相談活動」や「教職実践演習」等の既存授業の中に、本プログラムの特定のトピック（例：「心理的アセスメントの演習」「関係機関との連携シミュレーション」等）を数コマ分組み入れ、内容の充実を図る。
- **カリキュラムの点検・評価**：自大学のカリキュラムにおいて、「養護教諭に求められる心理・福祉の素養」が網羅されているかを確認するためのチェックリストとして活用する。

本プログラムは、あくまで本事業内における検討結果として、科目新設の際の一つの例（参考資料）を提示するものである。養成大学に対して、本プログラムに沿った科目開設を求めるものではなく、各大学が自校のカリキュラム編成やリソースの状況に応じて、心理・福祉分野の教育内容を充実させるための検討資料として活用されることを想定している。

目次

はじめに 1
心理・福祉分野の資質能力一覧 5
心理福祉共通分野 5
全体目標１：児童生徒等の精神保健に関する理解と支援 5
主要精神疾患の理解と早期の気付き 5
発達障害の理解と支援 5
現代的な精神保健の課題と支援 5
全体目標２：健康相談及び心理社会的アセスメントと連携 6
健康相談における基本的態度 6
心理社会的アセスメントと情報共有 6
心理分野 7
全体目標１：心理社会的・認知的発達及び心身相関に基づく見立てと配慮 7
心理社会的発達及び認知の発達と逆境体験 7
心身相関の理解 7
全体目標２：健康相談及び保健指導における心理的支援の基礎と関係調整 8
健康相談及び保健指導における心理的支援の姿勢や基本技法 8
健康相談及び保健指導における関係の枠組みと境界の理解 8
福祉分野 9
全体目標１：権利擁護及び福祉的視点に基づくアセスメントと支援 9
権利擁護に基づく支援 9
福祉的視点に基づくアセスメントと校内外連携に基づく支援 9
全体目標２：福祉制度や社会資源の活用及び多職種連携のための設計 10
福祉制度や社会資源の理解と活用 10
支援をつなぐ援助技術と多職種連携 10
養成大学向け養成プログラム 11
心理福祉共通科目「養護教諭のための心理支援・福祉連携基礎」 11
科目概要 11
到達目標 12
授業の例 13
心理科目「養護教諭のための心理支援論」 19
科目概要 19

到達目標 21
授業の例 21
福祉科目「養護教諭のための学校福祉論」 26
科目概要 26
到達目標 27
授業の例 28

心理･福祉分野の資質能力一覧

心理福祉共通分野

全体目標１：児童生徒等の精神保健に関する理解と支援

保健室での日常の健康観察等の保健管理及び健康相談において、児童生徒等の心の健康課題の兆候に早期に気付き、兆候に対して必要な支援を理解する。

主要精神疾患の理解

一般目標：	保健室で捉えうる身体面、心理面、対人関係面、行動面、学習面の変化を手掛かりに、児童生徒等にみられる主要な精神疾患の初期兆候と症状の特徴を理解する。
到達目標：	１） 思春期における主要な精神疾患の症状及び特徴を理解している。 ２） 保健室で観察することが可能な主要な精神疾患の兆候の現れ方を理解している。

発達障害の理解

一般目標：	発達障害の特性や学習上又は生活上の困難を踏まえ、学校での合理的配慮や環境の調整等の支援の方法を理解する。
到達目標：	３） 発達障害の特性及び学習上又は生活上の困難を理解している。 ４） 合理的配慮及び環境の調整により困難を軽減するとともに、児童生徒等の強みを活かす支援の方法を理解している。

現代的な精神保健の課題と支援の理解

一般目標：	現代の学校、家庭及び社会における精神保健上の課題と、児童生徒等の心の健康に与える影響を踏まえ、支援の方法を理解する。
到達目標：	５） 現代の教育現場における精神保健上の課題及び支援の方法を理解している。 ６） 家庭環境や現代社会で生じ得る精神保健上の課題と児童生徒等への影響を理解している。 ７） 教職員の精神保健の重要性及び児童生徒等への影響を理解している。

全体目標２：健康相談及び心理社会的アセスメントと連携

兆候への気付きを起点に、基礎的な面接の技法により関係を形成し、BPS モデル[1]によるアセスメントを行い、支援的な関わりを経て校内外の連携につなげる一連の過程を理解する。

健康相談における基本的態度の理解

一般目標：

基礎的な面接の技法に基づき、児童生徒等に安心感をもたらす関わり方と、非言語的行動の観察及び非言語的技法による支援の基本を理解する。

到達目標：

８） 受容、傾聴、共感等の基礎的な面接の技法及び児童生徒等に安心感をもたらす関わり方を理解している。

９） 児童生徒等の非言語的行動に基づく心理状態の把握及び非言語的技法による支援の方法を理解している。

心理社会的アセスメントと情報共有の必要性の理解

一般目標：

児童生徒等の心身の発達及び生活背景を踏まえ、BPS モデルに基づいたアセスメントを行うとともに、結果を校内外と連携して支援に結び付ける基本を理解する。

到達目標：

１０） BPS モデルに基づき「生物学的要因（発達特性、病気等）」、「心理学的要因（認知、感情、信念、ストレス、パーソナリティ等）」及び「社会的要因（家庭の環境、学校の環境、人間関係等）」に注目した多面的なアセスメントを行う方法を理解している。

１１） BPS モデルに基づくアセスメント結果を、校内体制及び校外の関係機関と適切に情報共有し、連携へとつなげる方法を理解している。

１２） 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）を理解し、個人情報を適切に取り扱うことができる。

[1] BPS モデル（Bio-Psycho-Social Model）：児童生徒等の課題を、生物学的要因、心理学的要因、社会的要因の３つの観点から検討するモデル。

心理分野

全体目標１：心理社会的・認知的発達及び心身相関に基づく見立てと配慮

児童生徒等の心理社会的及び認知的発達を基盤に、心身相関の視点から身体症状や行動の変化の意味を捉え、逆境体験[2]の影響を踏まえつつ、学校場面に現れる兆候を適切な見立てへと整理する視点を理解する。

心理社会的発達及び認知の発達と逆境体験の理解

一般目標：乳幼児期から思春期に至る心理社会的発達及び認知の発達の基本を理解するとともに、逆境体験が発達や学習に及ぼす影響を踏まえ、学校における配慮の基本を理解する。

到達目標：
１） 乳幼児期から思春期に至る心理社会的及び認知の発達の課題を理解している。
２） 逆境体験を抱える児童生徒等への支援（トラウマインフォームドケア[3]の視点）を理解している。

心身相関の理解

一般目標：心身相関の基本を理解するとともに、学校場面に現れる身体症状、行動及び学習の変化等を心理的背景と関連付けて捉える視点を理解する。

到達目標：
３） 学童期及び思春期における心身相関の基本的な機序を理解している。
４） 心身相関を踏まえ、学童期及び思春期の学校場面における身体症状及び行動、学習の変化の特徴を理解している。

[2] 逆境体験：個人が生育や生活の中で経験する、心理的・社会的・環境的に困難な出来事。特に 0 歳から 17 歳までの虐待や家庭の機能不全等は「逆境的小児期体験（ACEs）」とされる。

[3] トラウマインフォームドケア：トラウマの影響を理解し、すべての支援やサービスを「トラウマを前提に安全に関わる」姿勢で行うアプローチ。再トラウマ化を防ぎ、安心と信頼の関係づくりを重視する。

全体目標２：健康相談及び保健指導における心理的支援の基礎と関係調整

健康相談及び保健指導における心理的支援を、関係の枠組みと境界の保持を前提に、児童生徒等の主体性を育みつつ予防から課題対応まで一貫して展開し、学校場面で適切に用いる基本を理解する。

健康相談及び保健指導における心理的支援の姿勢や基本技法の理解

一般目標：

健康相談及び保健指導において、個別相談及び集団アプローチに共通する基礎的な心理的支援の技法を、予防から課題対応までの段階に応じて適切に用いる基本を理解する。

到達目標：

５） 健康相談及び保健指導における心理的支援の基本的態度と理論を理解している。
６） 予防の視点に基づく心理的支援及び児童生徒等の主体的な問題解決を促す関わり方を理解し、児童生徒等の状態に応じた支援の見通しが持てる。
７） 精神疾患又は心理的課題を有する児童生徒等に対する心理的支援の主要なアプローチの概要及び学校場面での適用の基本を理解している。

健康相談及び保健指導における関係の枠組みと境界の理解

一般目標：

健康相談及び保健指導の場において、関係の枠組みを適切に設定し、心理的距離（境界）を保持する基本を理解するとともに、枠組みの逸脱や過剰関与等のリスクを見極める視点を理解する。

到達目標：

８） 児童生徒等との関係の枠組み（時間、場所、役割、記録、守秘、同意等）の設定及び逸脱時のリスクを理解している。
９） 児童生徒等との心理的距離（境界）の保持及び過剰関与等のリスクを理解している。

福祉分野

全体目標１：権利擁護及び福祉的視点に基づくアセスメント[4]と支援

児童の権利に関する条約に基づき、児童生徒等の生活背景を踏まえたアセスメントでニーズを見立て、そのアセスメント結果を軸に校内外で協働し、切れ目のない支援の基本を理解する。

権利擁護に基づく支援の理解

一般目標：　児童の権利に関する条約の内容を理解し、こども基本法（令和４年法律第 77 号）及び児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）の理念や枠組みを踏まえ、学校における配慮の基本と支援の方法を理解する。

到達目標：
１） 児童の権利に関する条約の内容を理解し、それを踏まえた学校における配慮や支援の基本を理解している。
２） こども基本法及び児童福祉法の理念や基本的枠組みを理解し、それらが学校における支援や連携の基盤となることを理解している。

福祉的視点に基づくアセスメントと校内外連携に基づく支援の視点の理解

一般目標：　児童生徒等及び家庭の生活背景を踏まえ、福祉的アセスメントで支援ニーズを見立て、そのアセスメント結果を軸に関係機関と連携して支援を行う視点を理解する。

到達目標：
３） 家族システム理論[5]の視点から、児童生徒等及び家庭に生じ得る生活課題やその背景、要因を理解している。
４） 児童生徒等及び家庭の生活課題や兆候を早期に発見し、支援するための福祉的視点に基づくアセスメントの基本を理解している。
５） 児童生徒等及び家庭の生活課題を踏まえたアセスメント結果に基づき、校内における支援方針の策定に参画するとともに、関係機関と連携した福祉的介入の基本を理解している。

---

[4] （福祉的視点に基づく）アセスメント：対象者の情報を収集・体系化し、対象者が直面する困難の特性や原因を推論すること。

[5] 家族システム理論：家族を家族成員間、世代、社会(地域)間の相互作用として機能するひとつのまとまり（システム）として理解すること。

全体目標２：福祉制度や社会資源[6]の活用及び多職種連携のための設計

学校内及び地域の関係機関（教育、福祉、医療等）との連携について、養護教諭が関係機関との協働のための窓口としての中心的な役割を果たしていくことを理解する。

福祉制度や社会資源の理解と活用

一般目標：

児童・家庭福祉の制度、校内外の関係専門職の役割、地域の福祉、医療、行政、民間等の資源を把握し、学校における支援へ適切につなげる視点や方法を理解する。

到達目標：

６） 児童・家庭福祉に関する主要制度の概要及び対象を理解している。
７） 児童生徒等の支援に携わる校内外の関係専門職の役割及び機能を理解している。
８） 学校外の社会資源（施設、制度、サービス等）の種別及び役割を理解し、支援につなげるための基本的な考え方を理解している。

支援をつなぐ援助技術と多職種連携の理解

一般目標：

個別対応を起点とし、関係教職員と連携すること及び学校と地域が協働して取り組むことの視点や方法を理解する。

到達目標：

９） 関係教職員と連携するとともに、校内協働型支援チームによる組織的対応に参画することを理解している。
１０） 養護教諭が専門機関の紹介や社会資源の連絡調整役（コーディネーター）等幅広い役割の担い手として、組織的対応を行うことやその方法について理解している。

[6] 社会資源：人々が生活をする上でのニーズの充足や、問題解決の目的に使われる各種の施設、制度、機関、知識、技術等の物的資源、人的資源の総称。

養成大学向け養成プログラム

心理福祉共通科目「養護教諭のための心理支援・福祉連携基礎」

科目概要

科目名
養護教諭のための心理支援・福祉連携基礎
科目の概要
■ 本科目は、保健室を起点として児童生徒等の心の健康課題に早期に気付き、心理社会的な視点から妥当な見立てを行い、学校の実際に即した支援と連携へとつなげるために、養護教諭に求められる心理支援・福祉連携の基礎的な考え方と方法を学ぶ科目である。 ■ 身体症状、行動、学習面等に現れる変化を手掛かりに、発達理解を基盤としたアセスメントを行い、心の不調の背景にある要因や症状の関連性を多面的に捉える力を養う。 ■ あわせて、健康相談及び保健指導の場面において、受容・傾聴・共感等の基本的態度や基礎的な面接技法を活用し、逆境体験にも配慮しながら、児童生徒等の安心を支える関わりと学校場面に適用可能な支援の構成について学ぶ。 ■ さらに、合理的配慮や環境調整の設計、校内体制の理解、外部機関との連携の進め方を扱うとともに、児童の権利に関する条約及び関係法令、守秘・同意、倫理を踏まえた記録と情報共有の在り方を理解し、専門職としての役割と責任に基づく実践力の形成を目指す。
科目策定の背景
■ 心の不調は、身体面、心理面、対人関係面、行動面、学習面に症状として現れる。養護教諭は、日常の健康観察等の保健管理と健康相談及び保健指導により、最初の兆候を捉える役割を担っている。初期段階で情報を整理し、緊急度を判断して、対応方針を決定する視点が求められる。 ■ 一方、兆候を表面的に捉えるだけでは、適切な見立てや配慮につながりにくい。心の健康課題に対応するために、養護教諭には、背景にある症状の関連性や要因を探り、基礎的な面接の技法を活用して支援する心理分野の専門性が求められる。 ■ あわせて、心の健康課題を解決するには、家庭背景や学校内外との連携を踏まえた支援が有効である。養護教諭には、家庭の状況を踏まえて関わる姿勢や、校内体制の整備と外部機関との調整を図り、情報共有を進める福祉分野の専門性も求められる。 以上を踏まえ、保健室を起点に「気付き」「見立て」「関わり」「連携」へと至る過程において、心理・福祉分野の専門性を活用し、児童生徒等の心の健康課題を解決する視点や方法を理解することを目的とする。
科目の目的（ねらい）
本科目では、保健室を基盤に、観察（言語、非言語）等の保健管理と健康相談を通じて児童生徒等の変化に早期に気付き、心理社会的アセスメントにより妥当な見立てを行い、学校の実際に即した支援を構成・実施し、校内外の関係者と協働して進めることを、児童の権利に関する条約及び関係法令、倫理の遵守を前提として実践できる養護教諭を養成することを目的とする。
養成する人材像

■ 兆候の気付きと初期対応ができる 保健室での健康観察等の保健管理と健康相談及び保健指導を通じ、心の健康課題に起因する身体症状・行動・学習の変化に早期に気付き、学校で実行可能な初期対応へつなげることができる。 ■ 発達理解に基づく見立てができる 発達及び発達障害の基礎を踏まえ、心理社会的アセスメントで身体・心理・生活背景を統合し、心の健康課題を抱えている児童生徒等の状態を、根拠をもって説明できる。 ■ 安心を支える関わりができる 受容、傾聴、共感及び非言語の手掛かりを用いて関係を形成し、逆境体験へ配慮しつつ、カウンセリングの技法を用いた支援を学校場面に適用できる。 ■ 合理的配慮・環境調整を設計できる 見立てに基づいて、学級・学校の実態に即した合理的配慮と環境調整を選択し、実行可能な支援案として提示できる。 ■ 権利・法令・倫理を遵守して運用できる 児童の権利に関する条約と関係法令、守秘・同意の原則に基づき、記録と情報を適切に扱い、説明責任を果たすことができる。 ■ 校内外と連携して支援を構成できる 校内体制の役割を把握し、守秘・同意に配慮して情報を整理・共有して支援を調整するとともに、外部機関への相談・紹介を適切に促すことができる。
授業全体の内容
■ 思春期における主要な精神疾患や発達障害の特徴を理解し、保健室で観察される行動・身体症状・学習上の変化を手掛かりに、心の不調の兆候を捉える視点を身につける。 ■ BPS モデルに基づき、生物学的・心理学的・社会的要因を統合した多面的な心理社会的アセスメントの基本を学び、児童生徒等の状態像を整理する力を養う。 ■ 健康相談及び保健指導の場において、受容・傾聴・共感を基盤とした基礎的な面接技法や非言語的関わりを用い、児童生徒等に安心感をもたらす支援の在り方を理解する。 ■ 発達特性や精神保健上の課題を踏まえ、合理的配慮や環境調整、ICT 活用等により困難を軽減し、強みやストレングス[7]を活かす支援の考え方を学ぶ。 ■ 家庭環境や現代社会が精神保健に及ぼす影響並びに教職員のメンタルヘルスの重要性を理解し、予防的視点に立った学校精神保健の取組について理解を深める。 ■ アセスメント結果の校内外での情報共有と連携の基本、個人情報保護や関係法令・倫理を踏まえた記録管理とリスクマネジメントを理解し、養護教諭としての役割と責任に基づく実践力の形成を目指す。

到達目標

1	思春期における主要な精神疾患の症状及び特徴を理解している。
2	保健室において観察することが可能な主要な精神疾患の兆候の現れ方を理解している。
3	発達障害の特性及び学習上又は生活上の困難を理解している。
4	合理的配慮及び環境の調整により困難を軽減するとともに、児童生徒等の強みを活かす支援の方法を理解して

[7] ストレングス：個人の「強み」や「能力」のみならず、その人が生活する地域や環境も含めた「できること」に着目する福祉の基本的な考え方

	いる。
5	現代の教育現場における精神保健上の課題及び支援の方法を理解している。
6	家庭環境や現代社会で生じ得る精神保健上の課題と児童生徒等への影響を理解している。
7	教職員の精神保健の重要性及び児童生徒等への影響を理解している。
8	受容、傾聴、共感等の基礎的な面接の技法及び児童生徒等に安心感をもたらす関わり方を理解している。
9	児童生徒等の非言語的行動に基づく心理状態の把握及び非言語的技法による支援の方法を理解している。
10	BPS モデルに基づき「生物学的要因（発達特性、病気等）」、「心理学的要因（認知、感情、信念、ストレス、パーソナリティ等）」及び「社会的要因（家庭の環境、学校の環境、人間関係等）」に注目した多面的なアセスメントを行う方法を理解している。
11	BPS モデルに基づくアセスメント結果を、校内体制及び校外の関係機関と適切に情報共有し、連携へとつなげる方法を理解している。
12	個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）を理解し、個人情報を適切に取り扱うことができる。

授業の例

＜授業例１＞

授業名	主要精神疾患の理解と早期の気付き
対応する到達目標	１）思春期における主要な精神疾患の症状及び特徴を理解している。 ２）保健室において観察することが可能な主要な精神疾患の兆候の現れ方を理解している。
キーワード	抑うつ、不安、摂食障害、統合失調症、自傷・希死念慮、強迫症、PTSD、適応障害
講義の例	・ 思春期において発生しやすい主要な精神疾患（うつ病、摂食障害、統合失調症、不安症群、適応障害等）の症状や特徴 ・ 児童生徒等の身体、言動、行動、対人関係、学習態度等における主要な精神疾患の兆候の現れ方 ・ 保健室で把握しやすい初期サインの見極めの基本的な視点 ・ 相談内容・身体症状・学校での様子等複数の情報を組み合わせて変化を捉える視点 ・ 医療機関受診や相談機関へのつなぎを検討する際の基本的な考え方
演習の例	・ 簡単な事例を用いて行動・訴えから読み取れるサインの整理と想定される状態を検討する。 ・ 事例に基づいて保健室での初期対応と「誰に・どのように」つなぐかをグループで検討する。

＜授業例２＞

授業名	発達障害の理解と学校場面での合理的配慮
対応する到達目標	３）発達障害の特性及び学習上又は生活上の困難を理解している。

	４）合理的配慮及び環境の調整により困難を軽減するとともに、児童生徒等の強みを活かす支援の方法を理解している。
キーワード	発達障害、ASD、ADHD、LD、合理的配慮
講義の例	・ ASD、ADHD、LD 等の発達障害の主な特徴 ・ 学習場面における特徴（集中困難、読み書きの困難等）の現れ方 ・ 生活場面における特徴（対人関係、感覚過敏、こだわり等）の現れ方 ・ 特徴を踏まえた合理的配慮（視覚化、構造化、予告、選択肢の提示等）の考え方 ・ 発達特性を強みとして捉える視点
演習の例	・ 簡単な事例を用いて、特徴と学校生活での困難や強みを整理し、困難を軽減するための環境調整や必要な合理的配慮、及び強みを活かすための支援方法をグループで検討する。 ・ 机上調査を行い、各自が考える発達障害のある児童生徒等への工夫例を出し合い、支援アイデアとしてまとめる。

＜授業例３＞

授業名	環境調整と ICT 活用による支援
対応する到達目標	４）合理的配慮及び環境の調整により困難を軽減するとともに、児童生徒等の強みを活かす支援の方法を理解している。
キーワード	環境調整、ICT 活用、ユニバーサルデザイン
講義の例	・ 教室・保健室等における物理的な環境調整（座席配置、音・光・刺激の調整、休憩スペースの設定等）の基本 ・ 時間や活動の見通しを支える環境調整（視覚的スケジュール、チェックリスト、段取りカード等）の基本 ・ タブレットやアプリ等の ICT を活用した情報提示・記録・コミュニケーション支援の基本的な活用例 ・ 環境調整と ICT 支援を組み合わせて、強みを活かすための個別支援を設計する視点
演習の例	・ 教室・保健室の平面図を使って環境調整案をグループで作成する。 ・ 身近な ICT ツールを挙げ、発達特性を持つ児童生徒等の困難の軽減や強みの発揮に、どのような場面でどのように役立つかを整理する。

＜授業例４＞

授業名	学校精神保健の現代的課題と支援
対応する到達目標	５）現代の教育現場における精神保健上の課題及び支援の方法を理解している。
キーワード	学校精神保健、いじめ、不登校、非行、心理社会的要因、初期対応、SBIRT[8]
講義の例	・ 学校における現代的な精神保健課題（いじめ、不登校、非行、希死念慮、オーバードーズ等）の特徴

[8] SBIRT：Screening（スクリーニング）、Brief Intervention（簡易介入）、Referral to Treatment（専門治療への紹介）の頭文字を取ったもの。リスクのある対象者を早期に発見し、そのリスクレベルに応じた短時間の介入や専門医療機関への紹介を行う包括的な支援プログラムのこと。

	・ 学級集団、友人関係、学習要求等学校内の心理社会的要因と精神保健課題との関連 ・ 行動、学習態度、身体症状として現れる心の不調のサインの捉え方 ・ 保健室での健康観察等の保健管理、健康相談及び保健指導を起点とした初期対応（傾聴、安心確保、記録）の基本 ・ 初期支援の枠組み（例：SBIRT の考え方）と校内連携へのつなぎ方の概要
演習の例	・ 簡単な事例を用いて、心の不調のサインを挙げ、必要な初期対応をグループで検討する。 ・ いじめ、不登校等のケースで養護教諭が誰と・いつ・どのように連携するかを簡単なフローとして整理する。

＜授業例５＞

授業名	家庭や現代社会が精神保健に及ぼす影響
対応する到達目標	６）家庭環境や現代社会で生じ得る精神保健上の課題と児童生徒等への影響を理解している。 ７）教職員の精神保健の重要性及び児童生徒等への影響を理解している。
キーワード	家族システム理論、養育ストレス、共依存、ヤングケアラー、逆境的小児期体験[9]（ACEs）、インターネット依存、SNS、経済・情報格差、文化的多様性
講義の例	・ 家族システム理論の基本と、養育ストレス、共依存、ヤングケアラー等家庭内の課題が児童生徒等に及ぼす影響 ・ 逆境的小児期体験（ACEs）の概念と、発達・学習・心身の健康への中長期的影響 ・ インターネット・SNS・ゲーム障害やネットトラブルが、睡眠・生活リズム・対人関係・学習に与える影響 ・ 経済格差や情報格差が、子供の生活環境・学習機会・心理的負担に及ぼす影響 ・ 性の多様性、国籍、障害等の文化的多様性の理解と配慮の基本
演習の例	・ 家庭要因と社会要因が重なっている事例を用いて、養護教諭として留意すべき視点を挙げ、グループで共有する。 ・ 現代的な精神保健課題を挙げ、グループで共有し、養護教諭として必要な支援や対応方法を考える。

＜授業例６＞

授業名	精神保健の保持・増進と予防的教育
対応する到達目標	５）現代の教育現場における精神保健上の課題及び支援の方法を理解している。 ６）家庭環境や現代社会で生じ得る精神保健上の課題と児童生徒等への影響を理解している。 ７）教職員の精神保健の重要性及び児童生徒等への影響を理解している。

[9] 逆境的小児期体験：学童期及び思春期における虐待や家庭の機能不全等、心理的・社会的・環境的に困難な出来事の総称。

キーワード	支持的精神保健、積極的精神保健、一次予防、二次予防、三次予防、ストレスマネジメント、ゲートキーパー、教員メンタルヘルス
講義の例	・ 支持的精神保健・積極的精神保健の概念と、学校における精神保健活動の位置付け ・ 一次・二次・三次予防の枠組みにおける養護教諭の役割と、保健室からの働きかけの基本 ・ 児童生徒等の状態に応じた予防的心理教育（ストレスマネジメントやライフスキル等）教育の基本 ・ 自殺予防等におけるゲートキーパーとしての役割と、校内の相談体制へのつなぎ方 ・ 教職員のメンタルヘルスの重要性（教職員の不調が児童生徒等に及ぼす影響を含む。）と、セルフケア、ラインケア及び組織的支援の視点
演習の例	・ 学校場面における一次・二次・三次予防の具体例を各自で考えグループで共有する。 ・ 教職員として取り入れやすいセルフケアやラインケアの方法を各自で考えグループで共有する。

＜授業例７＞

授業名	レジリエンスとエンパワーメント、ストレングスの視点による子供の理解
対応する到達目標	５）現代の教育現場における精神保健上の課題及び支援の方法を理解している。 ６）家庭環境や現代社会で生じ得る精神保健上の課題と児童生徒等への影響を理解している。 ７）教職員の精神保健の重要性及び児童生徒等への影響を理解している。 ８）受容、傾聴、共感等の基礎的な面接の技法及び児童生徒等に安心感をもたらす関わり方を理解している。
キーワード	レジリエンス[10]、エンパワーメント[11]、ストレングス、ソーシャルサポート、自己効力感、コーピング
講義の例	・ 児童生徒等のレジリエンス、エンパワーメント及びストレングスの概念 ・ 家庭・友人関係・教員との関係等ソーシャルサポートとレジリエンス・エンパワーメントの関連 ・ 児童生徒等の自己効力感やコーピング（対処行動）を高める支援の基本的な考え方 ・ 教職員自身のレジリエンスとメンタルヘルスが児童生徒等に与える影響の捉え方
演習の例	・ レジリエンス、エンパワーメントを支えストレングスを生かす関わり方について各自で考えグループで共有する。 ・ 事例（不登校、いじめ等）を用いて、児童生徒等のストレングスの視点からの捉え、レジリエンス、エンパワーメントを支える介入について各自で考え、グループで共有する。

[10] レジリエンス：回復力、弾性、復元力といった意味をもち、逆境、トラウマ、悲惨な出来事、恐怖等の重大なストレスにうまく適応する過程のこと。

[11] エンパワーメント：人々がもっている力に気づき、自己効力感を高め、自分自身の生活や環境をよりコントロールできるようにしていくこと。人として尊厳ある生活を送れるようにすること。

＜授業例８＞

授業名	健康相談における基本態度と非言語的関わり
対応する到達目標	８）受容、傾聴、共感等の基礎的な面接の技法及び児童生徒等に安心感をもたらす関わり方を理解している。 ９）児童生徒等の非言語的行動に基づく心理状態の把握及び非言語的技法による支援の方法を理解している。
キーワード	受容、傾聴、共感、安心感、非言語コミュニケーション、パラ言語、ミラーリング、ペーシング、バリデーション
講義の例	・ 健康相談における受容、傾聴、共感等基礎的面接技法の意義と基本的な姿勢 ・ 保健室における「安心して話せる場」の作り方（環境設定や声掛けの工夫等） ・ 表情、姿勢、視線、動作等非言語的行動から児童生徒等の心理状態を捉える視点 ・ 声の大きさ、速さ、トーン、間等パラ言語の特徴と、児童生徒等の状態との関連 ・ ミラーリング、ペーシング、バリデーション等の非言語的技法を用いた関わりの基本
演習の例	・ ロールプレイや教職員のデモを通して、受容・傾聴・共感と非言語的関わり（姿勢・声のトーン等）の違いを体験する。 ・ 短い場面描写から児童生徒等の非言語サインを読み取り、適切な応答や声掛けを各自で考えグループで共有する。

＜授業例９＞

授業名	心理社会的アセスメントと情報共有の基本
対応する到達目標	10）BPS モデルに基づき「生物学的要因（発達特性、病気等）」、「心理学的要因（認知、感情、信念、ストレス、パーソナリティ等）」及び「社会的要因（家庭の環境、学校の環境、人間関係等）」に注目した多面的なアセスメントを行う方法を理解している。 11）BPS モデルに基づくアセスメント結果を、校内体制及び校外の関係機関と適切に情報共有し、連携へとつなげる方法を理解している。 12）個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）を理解し、個人情報を適切に取り扱うことができる。
キーワード	BPS モデル、心理社会的アセスメント、心身の発達、家庭背景、生活環境、情報共有・連携
講義の例	・ BPS モデルに基づくアセスメントの視点 ・ 心理社会的アセスメントの目的と、身体・心理・社会的側面を統合して状態像を把握する視点 ・ 発達歴や学級での様子、家庭背景、生活環境等の情報を整理して評価する基本 ・ アセスメント結果を校内体制の中で共有し、役割分担や支援方針の確認につなげる方法 ・ 医療、福祉、行政等の外部機関との連携における情報提供の範囲と手続きの基本
演習の例	・ 簡単な事例を用いて、心理社会的アセスメントで整理すべき情報項目と、校内外の共有先を各自で考えグループで共有する。 ・ ロールプレイや教職員によるデモを通して、保護者や児童生徒等との情報共有及び同

	意における伝え方のポイントを確認する。

＜授業例１０＞

授業名	学校精神保健における倫理・法令とリスクマネジメント
対応する到達目標	５）現代の教育現場における精神保健上の課題及び支援の方法を理解している。 11）BPS モデルに基づくアセスメント結果を、校内体制及び校外の関係機関と適切に情報共有し、連携へとつなげる方法を理解している。 12）個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）を理解し、個人情報を適切に取り扱うことができる。
キーワード	学校保健安全法、児童虐待防止法、いじめ防止対策推進法、個人情報保護、守秘義務、インフォームド・コンセント、記録管理、リスクマネジメント
講義の例	・　学校精神保健に関連する主要な法令（学校保健安全法、児童虐待防止法、いじめ防止対策推進法等）の概要 ・　個人情報保護、守秘義務、インフォームド・コンセントに関する基本原則 ・　心の健康に関する記録の作成・保管・共有における留意点と、記録管理の基本的な考え方 ・　虐待や自傷他害が疑われる場合等緊急性の高い場面における通告・相談の判断と、リスクマネジメントの視点
演習の例	・　情報共有や通告の要否が問題となる事例を用いて対応方針と説明責任（誰に・何を・どこまで伝えるか）を各自で考えグループで共有する。

心理科目「養護教諭のための心理支援論」

科目概要

科目名
養護教諭のための心理支援論
科目の概要
■ 本科目は、保健室を訪れる児童生徒等の背景にある心理的サインを的確に理解し、発達や心身の状態を踏まえて適切に見立てた上で、養護教諭が行う心理的支援の基本的な考え方と方法を学ぶ科目である。 ■ 乳幼児期から思春期に至る心理社会的・認知的発達及び心身相関の理解を基盤に、いじめ、不登校、逆境体験、発達特性等が児童生徒等の行動や身体症状としてどのように現れるかを多面的に捉える力を養う。 ■ あわせて、健康相談及び保健指導の場において養護教諭が援用する基礎的な心理的支援の態度や技法、予防の視点に基づく関わり及び児童生徒等の主体的な問題解決を促す支援の考え方を学ぶ。 ■ さらに、保健室という開かれた空間における支援の特性を踏まえ、関係の枠組みや心理的距離（境界）の保持、過剰関与の回避、危機的状況への初期対応と校内外連携について理解を深め、専門職としての役割と限界を踏まえた実践力の形成を目指す。
科目策定の背景
■ 現代の児童生徒等が抱える課題は、いじめ、不登校、虐待、自傷行為、発達障害等多様化・複雑化しており、心の問題が身体症状として現れる場合も多い。保健室を訪れる児童生徒等の背景には、家庭や人間関係における心理的負担や逆境体験が潜んでおり、養護教諭はその初期的なサインを最も早く受け止める立場にある。 ■ こうしたサインを的確に理解し対応するためには、乳幼児期から思春期に至る心理社会的・認知的発達及び心身相関の理解を基盤に、児童生徒等の状態を多面的に見立てる力が必要である。その上で、傾聴、共感、応答等の基礎的な心理的支援の技法を援用し、発達段階や状態に応じた関わりを行うことが求められる。また、保健室という開かれた空間においては、時間、場所、記録、守秘、同意等の関係の枠組みを明確にし、心理的距離を適切に保持しながら支援する技能も重要である。 以上を踏まえ、保健室で把握される児童生徒等の心理的サインを的確に理解し、発達や心身の状態を踏まえて適切に見立てた上で、養護教諭が行う心理的支援の基本的な考え方と方法を理解することを目的とする。
科目の目的（ねらい）
本科目は、保健室で把握される児童生徒等の心理的サインを的確に理解し、発達や心身の状態を踏まえて適切に見立てた上で、養護教諭が行う心理的支援の基本的な考え方と方法を理解することを目的とする。具体的には、乳幼児期から思春期に至る心理社会的・認知的発達と心身相関の理解を基盤に、逆境体験への配慮を含めて兆候の意味を整理し、健康相談及び保健指導の場で養護教諭が行う基礎的な心理的支援の基本技法と関係の枠組み・境界の運用を統合して活用できる力を育成することを目的とする。

養成する人材像

■ 発達と心身相関の視点から児童生徒等の状態を見立てられる
乳幼児期から思春期に至る心理社会的・認知的発達を理解し、心身相関の視点から、児童生徒等の身体症状及び行動、学習の変化を多面的に捉えることができる。

■ 逆境体験に配慮した支援を設計できる
トラウマ[12]や逆境体験が発達や学習に及ぼす影響を踏まえ、トラウマインフォームドケアの視点から、学校における配慮や環境調整を計画し、安心して学べる場を整えられる。

■ 健康相談及び保健指導において養護教諭が行う心理的支援を理解している
傾聴、共感、応答等の基礎的な心理的支援の技法を活用し、児童生徒等が安心して話せる関係を形成するとともに、予防から課題対応まで一貫した支援について理解している。

■ 健康相談及び保健指導における児童生徒等との関係の枠組みと心理的距離を理解している
健康相談及び保健指導における関係の枠組み（時間、場所、役割、記録、守秘、同意等）を適切に設定し、心理的距離（境界）を保持しながら、過剰関与や逸脱を防ぐ支援を行うことができる。

授業全体の内容

■ 乳幼児期から思春期に至る心理社会的・認知的発達を踏まえ、学校場面における児童生徒等の行動や学習の変化を理解する。
■ 逆境体験や心身相関の視点から、保健室で見られる身体症状や心理的サインの背景を多面的に捉える。
■ 健康相談及び保健指導における心理的見立てと、養護教諭が行う心理的支援の基本的態度・技法を学ぶ。
■ 予防の視点に基づく心理的支援について、児童生徒等の状態や集団の状況に応じた支援の方向性を理解する。
■ 関係の枠組みや心理的距離（境界）の保持、過剰関与の回避を含め、養護教諭としての役割と限界を理解する。
■ 危機的状況における初期対応と、校内外の専門職との連携の基本を学ぶ。

[12] トラウマ：生命や身体の安全、自己の統制感が脅かされるような、強い恐怖・無力感を伴う圧倒的な体験をすることによって被る、著しい心理的ストレスのこと。

到達目標

1	乳幼児期から思春期に至る心理社会的及び認知の発達の課題を理解している。
2	逆境体験を抱える児童生徒等への支援（トラウマインフォームドケアの視点）を理解している。
3	学童期及び思春期における心身相関の基本的な機序を理解している。
4	心身相関を踏まえ、学童期及び思春期の学校場面における身体症状及び行動、学習の変化の特徴を理解している。
5	健康相談及び保健指導における心理的支援の基本的態度と理論を理解している。
6	予防の視点に基づく心理的支援及び児童生徒等の主体的な問題解決を促す関わり方を理解し、児童生徒等の状態に応じた支援の見通しが持てる。
7	精神疾患又は心理的課題を有する児童生徒等に対する心理的支援の主要なアプローチの概要及び学校場面での適用の基本を理解している。
8	児童生徒等との関係の枠組み（時間、場所、役割、記録、守秘、同意等）の設定及び逸脱時のリスクを理解している。
9	児童生徒等との心理的距離（境界）の保持及び過剰関与等のリスクを理解している。

授業の例

＜授業例１＞

授業名	発達段階に基づく児童生徒等の心理社会的理解
対応する到達目標	1）乳幼児期から思春期に至る心理社会的及び認知の発達の課題を理解している。
キーワード	エリクソンの発達段階理論、漸成（ぜんせい）発達[13]、発達課題と危機
講義の例	・ 心理社会的発達の基礎（エリクソンの発達段階、児童生徒等の発達段階と発達課題） ・ 発達段階と学校場面の行動特徴（仲間関係への敏感さ、評価不安、友人関係での不安定化、自己肯定感の低下） ・ 保健室で現れる“気になるサイン”の発達的背景の読み取り（幼児的退行、同じ訴えの繰り返し等）
演習の例	・ 簡単な事例（例：腹痛を訴え授業に戻りたがらない/友達と急に距離を置く）を用いて、発達段階の視点で、グループで仮説を立て、検討する。

＜授業例２＞

授業名	認知機能と学習・行動の変化
対応する到達目標	1）乳幼児期から思春期に至る心理社会的及び認知の発達の課題を理解している。

[13] 漸成（ぜんせい）発達（epigenesis）：生物学上の概念であり、器官の形成はあらかじめ決まった形に従うのではなく、段階ごとに次々と構成されていくとする考え方。エリクソンは、胎児の漸成的発達と同じように、この原理が出生後の心理社会的発達にも働くと考えた。

キーワード	注意機能、ワーキングメモリ、遂行機能、認知負荷、学習上の困難
講義の例	・ 認知機能の基礎（認知機能ピラミッド、認知負荷が高いときに生じやすい心理的反応） ・ 認知特性の偏りから生じる学校場面の行動（忘れ物が多い、複数指示が通らない、課題への着手が極端に遅い） ・ 保健室での観察ポイント（説明理解の速度、情報処理の負荷のかかりやすさ、「怠け」ではなく認知特性の可能性を探る視点）
演習の例	・ 学習面の困難に関する簡単な事例（例：指示が覚えられない／授業に疲れてしまう）を用いて、潜在的な認知特性を推測し、支援方法をグループで考える。

＜授業例３＞

授業名	逆境体験と学校での心理的配慮
対応する到達目標	2）逆境体験を抱える児童生徒等への支援（トラウマインフォームドケアの視点）を理解している。
キーワード	逆境的小児期体験（ACEs）[14]、トラウマ反応、トラウマインフォームドケア、配慮の基本
講義の例	・ 逆境的小児期体験（ACEs）と心理反応 ・ 生育歴上の困難が心理面に与える影響（過覚醒、情緒不安定、対人回避） ・ 保健室でよく見られるトラウマ関連のサイン（音に敏感、急な涙、刺激への過反応等） ・ トラウマインフォームドケアの視点（安心・安全・予測可能性を高める関わり、非追及型の対話） ・ 学校での心理的配慮（静かな場の確保、支援者の一貫性、刺激の調整、見通しの事前提示） ・ 逆境体験を検討するうえでの留意点（今現在に安全や健康に関わる問題がないかを確認した上で、過去の体験が疑われる場合に逆境的体験を考慮する）
演習の例	・ 簡単な事例を用いて、トラウマインフォームドケアの視点から過覚醒、回避等のサインを抜き出し、養護教諭としての対応方法をグループで考える。

＜授業例４＞

授業名	健康相談及び保健指導における心理的見立て（心身相関の理解）
対応する到達目標	3）学童期及び思春期における心身相関の基本的な機序を理解している。 4）心身相関を踏まえ、学童期及び思春期の学校場面における身体症状及び行動、学習の変化の特徴を理解している。
キーワード	心身相関、情動と身体反応、身体化、心理的防衛、ストレス反応
講義の例	・ 心身相関の基礎（ストレス理論、自律神経の働きと心理的背景の関連、情緒・ストレスが身体反応に及ぼす仕組み） ・ 身体化の基礎（心理的負担の身体への変換）

[14] 逆境的小児期体験（ACEs）： 0 歳から 17 歳までに経験する虐待や家庭の機能不全等の逆境体験のこと。これらが累積するほど、成人後の心身の健康や社会的適応に悪影響を及ぼす可能性がある。

	・ 身体化に見られやすい症状（頭痛、腹痛、倦怠感、動悸）や行動（朝の不調、週明けの症状、行事前の体調不良） ・ 心理的防衛機制（回避・退行・否認）の身体症状への影響 ・ 児童生徒等の心理・情動の特徴と身体症状への影響（自己意識の高まり、評価への敏感さ、対人関係の不安定さが情緒・身体反応に及ぼす影響、情動調整能力が未成熟なことによる身体症状の悪化）
演習の例	・ 「テスト前に腹痛になる」「朝だけ頭痛を訴える」等の簡単な事例を用いて、心理的背景についてグループで仮説を立て、検討する。

＜授業例５＞

授業名	各種検査所見の理解と健康相談及び保健指導への活用
対応する到達目標	３）学童期及び思春期における心身相関の基本的な機序を理解している。 ４）心身相関を踏まえ、学童期及び思春期の学校場面における身体症状及び行動、学習の変化の特徴を理解している。
キーワード	心身相関、情動と身体反応、身体化、心理的防衛、ストレス反応、心理検査、役割の明確化
講義の例	・ 各種検査の基礎（検査が示すもの・示さないもの） ・ 学齢期によく用いられる各種検査 ・ 各種検査の読み方（指数の高低差と行動特徴の関連、特性の凹凸から予測される教室での困難） ・ 各種検査所見の健康相談及び保健指導への活用（「怠け」「やる気がない」と誤解されやすい行動を再解釈、“できない背景”の理解促進としての伝え方） ・ 養護教諭の役割（養護教諭が行うのは、各種検査所見等を踏まえた配慮や支援の工夫、必要に応じた専門家へのつなぎであることの理解。各種検査の実施や解釈、診断は行わない。）
演習の例	・ 各種検査所見と短い事例記録を組合せ、保健室での声掛け、理解の仕方、配慮案をグループで考える。

＜授業例６＞

授業名	健康相談及び保健指導におけるカウンセリング技法の援用
対応する到達目標	５）健康相談及び保健指導における心理的支援の基本的態度と理論を理解している。 ７）精神疾患又は心理的課題を有する児童生徒等に対する心理的支援の主要なアプローチの概要及び学校場面での適用の基本を理解している。
キーワード	ロジャーズの自己理論[15]、自己一致・純粋性、「○○しながらカウンセリング」

[15] 自己理論：アメリカの心理療法家カール・ロジャーズ（Rogers, C. R.）が提唱した理論で、人は生得的に成長・自己実現へ向かう傾向をもち経験を通して自己を形成すると考えられた。また、自己概念と経験の不一致は不安や不適応を生むとされた。この理論を基盤に来談者中心療法が確立され、治療的変化を促すカウンセラーの態度として、無条件の肯定的関心・共感的理解・自己一致が示された。

講義の例	・ カウンセリングの基本的態度 ・ 基本的なカウンセリング応答技法（感情の反映、明確化、共感、促し、沈黙の活用） ・ 健康相談及び保健指導における養護教諭の実践（手当てをしながらの対話） ・ 実践における留意点（深まりすぎない関わり、聞きすぎによるリスク、健康相談及び保健指導で扱う範囲と、スクールカウンセラー等へのつなぎ）
演習の例	・ 「友達とずっと喧嘩していて落ち込んでいる」と訴えた児童への対応を想定し、感情の反映と共感を用いた応答をロールプレイで練習する。

＜授業例７＞

授業名	予防の視点に基づく心理的支援
対応する到達目標	６）予防の視点に基づく心理的支援及び児童生徒等の主体的な問題解決を促す関わり方を理解し、児童生徒等の状態に応じた支援の見通しが持てる。
キーワード	ストレスマネジメント教育、ソーシャルスキルトレーニング[16]、自尊感情・自己有用感を高める教育[17]
講義の例	・ 予防の視点に基づく関わり方（対人トラブル・不安傾向の初期サインの捉え方、自尊感情・自己肯定感を高める関わり） ・ 予防の視点に基づく支援における留意点（個人や集団の状況に応じた適切な支援の判断） ・ 心理教育的アプローチ（ストレス反応の説明方法、呼吸法・リラクセーション等のセルフケアの方法） ・ ソーシャルスキルトレーニング（助けを求める・断る・感情を伝える技能、アサーティブな自他尊重のコミュニケーション）
演習の例	・ 「緊張して朝に不調が出る児童」に対するセルフケアの案をグループで考える。 ・ お互いの「いいところ探し」や相互に良さを伝え合う活動をグループで行う。

＜授業例８＞

授業名	健康相談及び保健指導における関係の枠組み
対応する到達目標	８）児童生徒等との関係の枠組み（時間、場所、役割、記録、守秘、同意等）の設定及び逸脱時のリスクを理解している。
キーワード	時間、場所、役割、記録、守秘、同意
講義の例	・ 基本的な相談の枠組み（時間・場所・目的の設定による安心感） ・ 守秘と情報共有（学校での守秘の原則と例外場面、担任・管理職への共有すべき情報の線引きや同意を得る方法）

[16] ソーシャルスキルトレーニング：対人関係や社会的場面で適切に振る舞う技能（挨拶、自己主張、協力等）を学ぶ訓練法。発達支援や教育現場で活用される。

[17] 自尊感情・自己有用感を高める教育：自分の良さや努力に気づき肯定的に受け止める力を育む取組。自己理解と自己受容を促し、前向きな行動や人間関係の改善につなげることを目的とする。

	・　健康相談及び保健指導におけるリスク管理 ・　枠組み逸脱の典型例（長時間滞在、私的 SNS 連絡等）
演習の例	・　「学校では話せないので、養護教諭に個人的に相談したい。プライベートの連絡先を教えて」と言われた時の養護教諭の対応についてグループで検討する。 ・　児童生徒等から聴いた話を他の教職員と共有する場合の、目的や同意を得る方法、伝え方をグループで検討する。

＜授業例９＞

授業名	境界（心理的距離）の保持と過剰関与の回避
対応する到達目標	９）児童生徒等との心理的距離（境界）の保持及び過剰関与等のリスクを理解している。
キーワード	境界、役割混同、過剰関与、巻き込まれ
講義の例	・　教育的関係における役割と限界（健康相談及び保健指導における適切な距離） ・　境界逸脱の典型例（特定児童生徒等への過度な介入・家庭事情の聴き過ぎ） ・　健康相談及び保健指導における支援者の自己理解や自身の感情への気付きの重要性 ・　校内相談体制の活用（養護教諭が情報を抱え込まないようにするための相談ルート、危険な兆候が見られるときの早期共有）
演習の例	・　気になる児童に肩入れしすぎてしまう事例について、養護教諭としての対応をグループで検討する。

＜授業例１０＞

授業名	危機的状況への初期対応と安全確保
対応する到達目標	5）健康相談及び保健指導における心理的支援の基本的態度と理論を理解している。 8）児童生徒等との関係の枠組み（時間、場所、役割、記録、守秘、同意等）の設定及び逸脱時のリスクを理解している。 9）児童生徒等との心理的距離（境界）の保持及び過剰関与等のリスクを理解している。
キーワード	緊急性判断、安全確保、危機のサイン、見逃さない視点、初期対応
講義の例	・　危機の理解（自傷他害リスク、急性不安、家庭での急変等の危険サイン） ・　危機の兆候（急な情緒変化・沈黙・身体症状の急増等） ・　危機的状況における初期対応の原則（安全確保、聴き過ぎない・追及しない・断定しない、落ち着きの支援） ・　専門職へのつなぎと校内連携
演習の例	・　危機的状況の事例を用いて、危機度判定と養護教諭としての初期対応を検討する。

福祉科目「養護教諭のための学校福祉論」

科目概要

科目名
養護教諭のための学校福祉論
科目の概要
■ 本科目は、保健室を訪れる児童生徒等の背景にある貧困や虐待等の福祉的課題の兆候に早期に気付き、支援の必要性を見極めるための視点と基本的な考え方を学ぶ科目である。 ■ 児童の権利に関する条約やこども基本法、児童福祉法等の関連法制度及び家族システム理論の理解を基盤とし、児童生徒等の心身の健康と生活環境を結び付けて捉える視座を養う。 ■ あわせて、福祉的視点に基づくアセスメントの基本を理解し、その気付きを学校内外の専門職や社会資源（医療、福祉、行政等）への支援へと適切につなげるための基礎知識を習得する。 ■ さらに、養護教諭が担う専門機関の紹介や連絡調整役（コーディネーター）としての役割、組織的対応の重要性を理解し、多職種と効果的に協働するための連携の基本と倫理的配慮について理解を深める。
科目策定の背景
■ 貧困や虐待等、児童生徒等や家庭を取り巻く社会問題が複雑化、深刻化する中、保健室は心身の不調のみならず多様な悩みを抱える児童生徒等の最初の相談窓口となっている。こうした状況において養護教諭には、個々の訴えの背景にある潜在的な福祉的課題の兆候に早期に気付き、支援の必要性を見極める視点が求められる。 ■ さらに、発見された問題の解決や課題の改善には、校内の専門職や校外の専門機関と連携する役割が求められる。この役割を効果的に遂行するには、教育分野の専門性に加え、多職種と協働するための福祉制度等の基礎知識の理解が必要である。 以上を踏まえ、本科目は養護教諭が「気付き」から「連携」につなげるための基本的な考え方を福祉の視点から学ぶ体系的な基盤科目として、児童生徒等の心身の健康と生活環境を結び付けて捉える視座を養うとともに、多職種協働の拠点としての保健室の役割を遂行するための基礎能力を培うことを目的とする。
科目の目的（ねらい）
本科目は、養護教諭が福祉の視点や考え方を学び、児童生徒等の心身の健康と生活環境を結びつけて捉える視座を養い、保健室を起点として多職種と協働するための基礎的な理解を得ることを目的とする。
養成する人材像
■ 権利擁護の必要性と、福祉的視点を持つことの重要性を理解している。 児童生徒等の権利擁護を基盤に、教育と福祉の視点を統合し、児童生徒等一人一人の育成を支えることの重要性を理解できる。 ■ 児童生徒等の抱える問題の背景を多面的に洞察できる。 児童生徒等が発する心身のサインから、その背景にある家庭環境や生活課題を多面的に洞察しようとする視点を持つことができる。 ■ 多職種連携における基本的な考え方を理解できる。 校内外の多様な専門職や関係機関の役割を理解し、養護教諭として児童生徒等の状況に応じた多職種連携における基本的な考え方を理解している。

授業全体の内容
本科目は、児童生徒等の権利擁護と関連法制度の理解を基盤とし、児童生徒等の生活背景を踏まえた福祉的視点に基づくアセスメントの基本的な考え方を理解する。 あわせて、その気付きに基づき、校内外の専門職や社会資源との連携及び調整に必要となる基礎知識を学ぶ。

到達目標

1	児童の権利に関する条約の内容を理解し、それを踏まえた学校における配慮や支援の基本を理解している。
2	こども基本法及び児童福祉法の理念や基本的枠組みを理解し、それらが学校における支援や連携の基盤となることを理解している。
3	家族システム理論の視点から、児童生徒等及び家庭に生じ得る生活課題やその背景、要因を理解している。
4	児童生徒等及び家庭の生活課題や兆候を早期に発見し、支援するための福祉的視点に基づくアセスメントの基本を理解している。
5	児童生徒等及び家庭の生活課題を踏まえたアセスメント結果に基づき、校内における支援方針の策定に参画するとともに、関係機関と連携した福祉的介入の基本を理解している。
6	児童・家庭福祉[18]に関する主要制度の概要及び対象を理解している。
7	児童生徒等の支援に携わる校内外の関係専門職の役割及び機能を理解している。
8	学校外の社会資源（施設、制度、サービス等）の種別及び役割を理解し、支援につなげるための基本的な考え方を理解している。
9	関係教職員と連携するとともに、校内協働型支援チームによる組織的対応に参画することを理解している。
10	養護教諭が専門機関の紹介や社会資源の連絡調整役（コーディネーター）等幅広い役割の担い手として、組織的対応を行うことやその方法について理解している。

[18] 児童・家庭福祉：児童の健やかな育ちの土台である家庭環境全体を重視し、「児童と家庭を一体として支える」という理念を示すもの

授業の例

＜授業例１＞

授業名	養護教諭に求められる福祉的視点
対応する到達目標	1)～10)全て
キーワード	児童生徒等と家庭の現状、保健室の役割、福祉的視点
講義の例	・ 現代の子供と家庭を取り巻く課題の概観 ・ 課題の早期発見における保健室の役割（ゲートキーパー機能） ・ 養護教諭が「福祉的視点」を持つことの必要性と意義 ・ 本科目の目的と学習の全体像
演習の例	・ 「最近気になった子供関連のニュース」を共有し、その背景に何があるかをグループで検討する。 ・ 保健室に来室する児童生徒等の訴えの背景に「福祉的課題」が潜む可能性についてグループで検討する。

＜授業例２＞

授業名	権利擁護の理念と関係法令
対応する到達目標	1）児童の権利に関する条約の内容を理解し、それを踏まえた学校における配慮や支援の基本を理解している。 2）こども基本法及び児童福祉法の理念や基本的枠組みを理解し、それらが学校における支援や連携の基盤となることを理解している。
キーワード	児童の権利に関する条約、こども基本法、児童福祉法、権利擁護
講義の例	・ 「児童の権利に関する条約」の４つの基本原則（①差別の禁止、②児童の最善の利益、③生命、生存及び発達に対する権利、④児童の意見の尊重） ・ 条約を踏まえた学校における配慮や支援の基本的な考え方 ・ こども基本法の理念 ・ 児童福祉法の基本的枠組みの理解
演習の例	・ 学校生活における具体的な場面を取り上げ、「児童の権利に関する条約」の視点からその場面をどのように捉え直すことができるかグループで検討する。 ・ 「児童の権利に関する条約」の４つの基本原則について、学校現場における具体例を挙げて検討する。

＜授業例 3＞

授業名	児童生徒等及び家庭の生活課題を理解する視点
対応する到達目標	３）家族システム理論の視点から、児童生徒等及び家庭に生じ得る生活課題やその背景、要因を理解している。
キーワード	家族システム理論、生活環境、ストレングス、リスク要因、保護要因
講義の例	・ 家族システム理論の基本的な考え方 ・ 児童生徒等の課題を「個人の問題」だけでなく家族システム理論の視点から理解する

	ための基礎知識 ・ 貧困、虐待等の課題が生じる背景・要因 ・ ストレングスと対概念であるウィークネス[19]の違いと、生活課題改善に向けたそれぞれの視点の活用
演習の例	・ 提示された事例について、家族システム理論の視点を用いると、どのような見立てが可能になるかグループで検討する。 ・ 事例についてストレングスとウィークネスの双方を洗い出し、それぞれの視点から見える児童生徒像の違いや、支援の切り口についてグループで検討する。

＜授業例 4＞

授業名	福祉的視点の必要性
対応する到達目標	4）児童生徒等及び家庭の生活課題や兆候を早期に発見し、支援するための福祉的視点に基づくアセスメントの基本を理解している。 5）児童生徒等及び家庭の生活課題を踏まえたアセスメント結果に基づき、校内における支援方針の策定に参画するとともに、関係機関と連携した福祉的介入の基本を理解している。
キーワード	福祉的視点、気付き、見立て、観察
講義の例	・ 福祉的視点を取り入れたアセスメントの基本的な考え方 ・ 心身のサインから生活課題の兆候に気付き、把握するための基本的な視点 ・ 保健室での対話を通じた情報収集と見立ての基本 ・ 児童生徒等を取り巻く環境や関係性を可視化する手法の紹介
演習の例	・ 保健室での簡単な会話事例から、背景にある生活課題の見立てを複数挙げて、検討する。 ・ 簡単な事例に基づき、児童生徒等や家族を取り巻く人間関係や社会資源を図式化（可視化）する。

＜授業例 5＞

授業名	児童・家庭福祉の制度と社会資源
対応する到達目標	6）児童・家庭福祉に関する主要制度の概要及び対象を理解している。 8）学校外の社会資源（施設、制度、サービス等）の種別及び役割を理解し、支援につなげるための基本的な考え方を理解している。
キーワード	児童・家庭福祉制度、社会資源、相談支援事業
講義の例	・ 「社会資源」の概念（フォーマル／インフォーマル） ・ 児童相談所、市町村のこども家庭センター等の主要制度の概要と対象 ・ ひとり親家庭、生活困窮家庭、障害児家庭等を支える主な福祉制度 ・ 養護教諭が制度の概要を知っておくことの意義
演習の例	・ 貧困や虐待等、ケースの状況に応じて、活用可能な制度や社会資源をグループで検

[19] ウィークネス：個人の「課題」や「苦手さ」のみならず、その人の生活を阻害する地域や環境の障壁や資源の欠如も含めた「できないこと」に着目する視点。

	討する。 ・ 自身の居住地域の「こども家庭センター」や「児童相談所」の連絡先や機能を検索し、グループで共有する。 ・ 障害福祉サービスの種別や利用方法を整理した上で、地域にある事業所・施設を調べて一覧化し、社会資源マップを作成する。

＜授業例 6＞

授業名	校内外の連携体制と専門職の役割
対応する到達目標	7）児童生徒等の支援に携わる校内外の関係専門職の役割及び機能を理解している。 9）関係教職員と連携するとともに、校内協働型支援チームによる組織的対応に参画することを理解している。
キーワード	スクールソーシャルワーカー、社会福祉士、精神保健福祉士
講義の例	・ 校内、校外の主な関係専門職の概要 ・ スクールソーシャルワーカーの役割と業務内容 ・ 校外の関係機関に配置されている福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士等）の役割と業務内容 ・ 校内、校外の各専門職との効果的な連携のポイント
演習の例	・ 児童生徒等や家庭をめぐる事例を用いて、各専門職の役割や機能をグループで検討する。 ・ 福祉の専門職、心理の専門職、教職員の専門的役割や視点の違いについて、マトリクス表等を作成して整理し、グループで検討する。 ・ 養護教諭が校内外の専門職と連携する際に、児童生徒等や家庭の状況や支援の必要性を適切に伝えるためのポイントについて、グループで検討する。

＜授業例 7＞

授業名	校内連携とチームアプローチ
対応する到達目標	5）児童生徒等及び家庭の生活課題を踏まえたアセスメント結果に基づき、校内における支援方針の策定に参画するとともに、関係機関と連携した福祉的介入の基本を理解している。 9）関係教職員と連携するとともに、校内協働型支援チームによる組織的対応に参画することを理解している。 10）養護教諭が専門機関の紹介や社会資源の連絡調整役（コーディネーター）等幅広い役割の担い手として、組織的対応を行うことやその方法について理解している。
キーワード	組織的対応、校内連携、ケース会議
講義の例	・ 「組織的対応」の必要性 ・ 校内連携の仕組みと機能 ・ 効果的なケース会議の進め方と養護教諭の役割
演習の例	・ ケース会議の模擬事例を読み、養護教諭としてどのような情報を提供できるかグループで検討する。 ・ 養護教諭がアセスメントした内容を、校内チームに伝える際のポイントをグループで検討

	する。

＜授業例 8＞

授業名	地域連携の仕組みと実際
対応する到達目標	8）学校外の社会資源（施設、制度、サービス等）の種別及び役割を理解し、支援につなげるための基本的な考え方を理解している。 10）養護教諭が専門機関の紹介や社会資源の連絡調整役（コーディネーター）等幅広い役割の担い手として、組織的対応を行うことやその方法について理解している。
キーワード	要保護児童対策地域協議会[20]、地域連携
講義の例	・ 要保護児童対策地域協議会の仕組みと機能 ・ 虐待が疑われる場合の通告義務の理解 ・ 地域連携ネットワークにおける養護教諭の役割 ・ 地域の福祉、保健、医療機関との連携の実際
演習の例	・ 虐待が疑われる事例を提示し、通告や連携のプロセスを確認する。 ・ 校外連携の事例を読み、関係機関の役割や連携のメリット・留意点を整理するとともに、養護教諭が果たす役割についてグループで検討する。 ・ 教育と福祉における「要保護」の定義の違いを整理した上で、養護教諭が学校現場で関わる「支援を要する児童生徒・家族」にはどのような特徴があるかを議論し、整理する。

＜授業例 9＞

授業名	養護教諭の連絡調整機能（コーディネート機能）と倫理
対応する到達目標	10）養護教諭が専門機関の紹介や社会資源の連絡調整役（コーディネーター）等幅広い役割の担い手として、組織的対応を行うことやその方法について理解している。
キーワード	連絡調整、連携、情報共有、守秘義務、プライバシー保護
講義の例	・ 養護教諭が連絡調整役（コーディネーター）として多職種と連携することの重要性 ・ 養護教諭の学校保健において求められる連絡調整能力（コーディネート力）の基本知識 ・ 連携における基本的な考え方 ・ 連絡調整における守秘義務及びプライバシー保護の基本的な考え方
演習の例	・ 養護教諭に求められるコーディネート力についてグループで検討する。 ・ 外部機関に情報提供する際に、留意する倫理的視点についてグループで検討する。

＜授業例 10＞

授業名	総合事例検討：福祉的視点に基づく連携
対応する到達目標	7）児童生徒等の支援に携わる校内外の関係専門職の役割及び機能を理解している。

[20] 要保護児童対策地域協議会：虐待や保護者の事情（家出、死亡、離婚、入院等）や家庭環境に起因する非行等、保護や支援を必要とする要保護児童について、関係機関等が集まり情報交換や支援内容の協議を行うネットワーク会議

	8）学校外の社会資源（施設、制度、サービス等）の種別及び役割を理解し、支援につなげるための基本的な考え方を理解している。 9）関係教職員と連携するとともに、校内協働型支援チームによる組織的対応に参画することを理解している。 10）養護教諭が専門機関の紹介や社会資源の連絡調整役（コーディネーター）等幅広い役割の担い手として、組織的対応を行うことやその方法について理解している。
キーワード	事例検討、ロールプレイング、多職種連携
講義の例	・　複合的な福祉的課題を抱える事例の提示 ・　事例の経過と、各段階での対応の解説 ・　養護教諭の専門性に福祉的視点を取り入れることによって、支援の方向性にどう影響したかの分析 ・　校内外の多職種連携が機能したポイントの整理
演習の例	・　提示された事例について、養護教諭の専門性に福祉的視点を取り入れながら情報を整理し、どのような支援が考えられるかグループで検討する。 ・　不登校等の複合的な課題を抱える模擬事例を用い、校内ケース会議のロールプレイングを実施した上で、具体的な支援方法をグループで検討する。 ・　校外連携について、想定される具体的な連携先を挙げ、連携の目的、方法、連携後の見通しを項目別に検討・整理する。 ・　本科目全体を振り返り、養護教諭として福祉的視点をどのように生かしていきたいか、自身の考えをグループで共有する。